

第1課題
國井 清照

私は、海岸というのは、陸と海の唯一の接点であり、人間にとって海に親しむ唯一の場所であると思う。マリーナクラブハウスは、マリンスポーツの基地としての機能を持たなければならない。そこで私は、以下のような提案で設計した。

- (1) 初心者に船の喜びを与え、船を間近に感じることのできる空間を提供する。
 - (2) 多くの人々に水や海と親しむために、あらゆる場所で水や海を感じることもできる空間を提供する。
- 具体的には、サイクリングロードからまっすぐ海に向かって建

物を出してあげ、屋根を海に伸びる道として開放してあげたり、また博物館では現在の東京湾の状況などを考えてもらう様な建物を設計しました。

第1課題
玉木 政裕

この課題は東京湾に面した敷地にセイリングヨットの訓練施設を主としたマリンスポーツの基地を計画するものです。私はこの計画において海と共存するための施設として、建築に海の表や海を感じることもできる空間を提供している。それは、風向きの変化であったり、絶え間なく打ち続ける波であったり、この変

化に富んだ海をイメージし、海に向かって迫り出した水平でない屋根や鉛直でない傾いた壁を連続させることで表現してみた。

第1課題
埴 祐子

「健康でいたい。でも何をやっていいかわからない……。」そんなひといませんか？
このマリーナクラブハウスは、海を愛し、スポーツで汗を流すことを好む、そんな人たちと、スポーツはちょっと……という人たちとの、交流の場として、提案・設計を行った施設です。「たのしく」そして「つかいやすく」それが、私の設計目標です。

指導=西野 善介

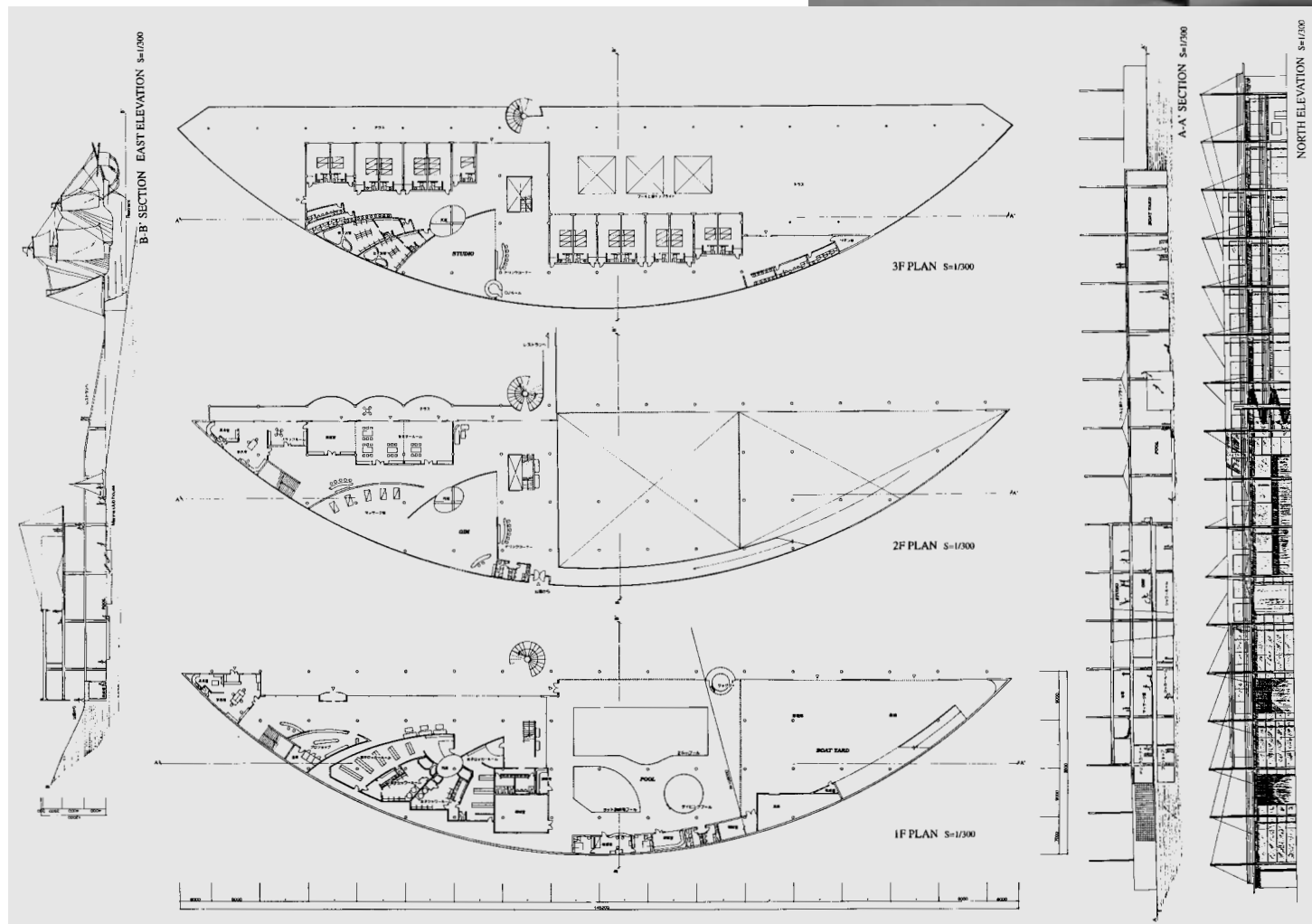
第1課題は東京湾の埋立地に実在するマリーナ・クラブハウスをモデルとして出題された。敷地は荒川の河口にゴミを埋め立てて出現した若洲海浜公園の斜面にあり、海を舞台に小型ヨットの練習を目的とする公営のクラブハウスが現存している。このクラブハウスはかつて私の事務所で設計した小さなクラブハウスである。ここに同好の人々や初心者研修のための短期滞在型の宿泊機能を加えたり、体力トレーニングのためのスペースなども付加して計画してみようとして出題した。必要な機能は、

設計演習 I

第1課題
マリーナクラブハウス
—海と対話する建築

3年2組

担当=
西野 善介



集まる、学ぶ、宿泊する、食事するという住宅にも似た機能の他に、小型ヨットを格納したり修理するスペース等は必須であるとした。勿論、各自の独創豊かな提案や企画もどんどん採り入れて、海をフィールドとするマリンスポーツの基地として楽しく快適なクラブハウスを自由に設計していただこうということが出題の狙いであった。授業は、まずこの敷地を実際に見ることから始まった。ヨットの浮かぶ海を見ながら、この敷地の特性、景観、斜面に計画することの断面的処理の方法や日照、風向きについても語り合った。学生たちのキラキラした目が印象的であった。しかし、そ

の笑顔も授業が進むにつれ、やがて曇ってきたことに私は気づいた。いろいろなイメージが交錯し、ひとつのイメージに収斂出来ない人、出題のプログラムを組み合わせることが出来ず入り口で戸惑う人、平面の構成は出来ているが断面計画に矛盾と錯覚のある人、逆に立面のイメージは有ってもプランの構成が出来ない人、等など、誰もが設計で直面する踏み絵のような過程である。そのとき私は、かつて私も君たちと同じ戸惑いがあった経験などを話してみたり、各自のイメージを成長させながら一緒に計画を煮詰めた。毎回体験することであったがこ

の経過が最も学生諸君には大切な時間であったと、いつか気が付かれることと思う。塙祐子案は、敷地の北斜面に大きな円弧、海側には開口部をとった案。各階のプランも、利用者の動線も巧みに処理されている。1階には、温水プール、ダイビングプールとヨット格納庫、更衣室が配され、2階は研修室、ラウンジ、3階は宿泊ゾーンを設定している、レストランは公園利用者も自由に利用出来るように古船を海に浮かべるという企画で楽しくバランスの良い仕上がりである。特に空間のスケール感とプランニングの巧みさ、立面の表現に優れた彼女の感性をみれる佳作であると

評価した。國井清照案は、L型の配置をとり、海に突き出す棟には、1階に高い吹き抜けのギャラリーを計画、3階には研修室と宿泊室を設定。一方斜面側には、管理と運営の諸室とヨット格納室とプールを計画している。この思い切りのいい構成はおそらく、このウォーターフロントの敷地に新しい魅力をもたらすであろうと思われる。特にマリナエリアに突き出すフォルム、各室からの眺望の良さは彼の意図するところであろう。しかしながら立面の構成と表現方法には、今一步の洗練さがあればと惜しまれる。玉木政裕案は、かなりの労作で

ある。彼はいくつものイメージ模型を造りながら私と熱い議論をした思い出がある。当初の構成は、宿泊室をコテージのように斜面に点在させる案であったと思うが、いくつかの議論の末、本案に到達した。最後の提出1週間前には私の事務所に来てもらい、ようやくふっ切れて、おそらく徹夜で仕上げたのであろう。構成と各室の家具の配置等には的確なものがあるが、計画のポイントがどこにあったのが見えないのが残念。また、斜めに貫く、廊下の必然性には疑問があろう。しかしながら、建築家としての資質と、努力を惜しまない根性には敬服できる。彼の今後の成長を期待しよう。